

平和への思いをつなぐ

特集

～戦争の残酷さを伝承する～

終戦を迎えてから70年以上が経過しました。かつての戦争では、たくさんの人が傷付き、命を失っていきました。その時に負った傷はいまだに苦しんでいる人もいます。そして、家族を亡くした遺族の悔しさ、悲しさも決して消えることはありません。今回はその遺族の思いを聞き、命の尊さ・平和の大切さについて考えてみましょう。

硫黄島に残る戦車



むらかみ せいじろう 村上 征二郎 さん 72歳

まだ見ぬ間に訪れた別れ

村上征二郎さんは、父・亥之介さん、母・睦子さんの次男として生を受けました。しかし、征二郎さんは生前の亥之介さんに会ったことはありません。母・睦子さんが征二郎さんを妊娠中の昭和19年初めごろ、日本はアメリカと太平洋戦争の最中でしたが、亥之介さんの下に召集令状が届きました。

征二郎さんによると、すでに戦況が悪くなっていたところで、兵士の不足から行われた「臨時召集」であったそうです。亥之介さんが32歳のときでした。それから亥之介さんは戦地に赴きました。

亥之介さんは征二郎さんの誕生を戦地で知ります。誕生を喜んだ亥之介さんから「征二郎の写真を送ってほしい」との手紙が届いたそうです。昭和20年初めごろ、当時は近所での撮影が難しく、広島市

まで出て写真を撮り手紙と一緒に送ったそうですが、征二郎さんは「おそらく父は写真を見ていないだろう」と言います。ちょうど日本軍はアメリカ軍と硫黄島で戦いをしてきたところで、その硫黄島が亥之介さんの最期の地となったそうです。昭和20年3月17日、父・亥之介さんが33歳で戦死してから、征二郎さんら家族の元には遺骨が届いたそうですが、小さな箱が1つ届いただけだったそうです。

それからは、睦子さんは恩給などで一家の生計を支え、1歳年上の兄と征二郎さんの、2人の子どもを育て上げます。



むらかみ いのすけ 父・故村上 亥之介 さん

父・亥之介さんの最期の地「硫黄島」

「硫黄島」は、東京から南へ約1250キロメートル離れた小笠原諸島の南端にある島で、面積は約22平方キロメートル、北東から南西までの長さは約8.3キロメートル、島の周囲は約22キロメートルです。緯度でいうと台湾北部より若干南に位置しており、亜熱帯海洋性気候です。征二郎さんは、平成22年11月、平成27年2月、平成29年2月の3回、日本軍とアメリカ軍の激戦の地であり、父・亥之介さんの最期の地となった「硫黄島」を訪れました。この島は、陸軍の栗林中将(後に大将)が率いる約2万1千人の日本軍がアメリカ軍を迎え撃った戦場であり、両軍とも多くの犠牲を払いました。この地での戦いは映画に



島に残っている砲台



日本軍が掘り進んだ地下壕

もなっています。

自衛隊の飛行機で「硫黄島」に到着した征二郎さんは、思わず涙が出たそうです。

島の中を巡拝すると、そこには砲台やさびた戦車、日本軍が地下に掘り進んだ地下壕などが当時を物語るように残されているそうです。その地下壕の中には、「医務課壕」というものがあり、負傷した兵士などが運ばれたそうです。その中は暑く湿気でむっとし、眼鏡をかけていると曇ってしまいます。このような環境の中、負傷した兵士は大変だったろう。そして、亥之介さんを含む日本軍には食べ物も十分に無かったろう、負傷者や戦死者がどんどん増えていく中という日々を過ごしたのだらう、父はどうなったのだらうと思ひ巡らされました。

遺族の思い

征二郎さんは、幼いころ、父・亥之介さんのことや戦争の話は親戚から聞くばかりで、実は母・睦子さんとは、亥之介さんの話をしたことがないそうです。征二郎さん自身、睦子さんから話を聞くことについて「何か恐ろしい」という気持ちがあったそうですが、征二郎さんの記憶の中では、睦子さんが戦争についての恨みや弱音などを話したことは一度もないそうです。これは「戦争で夫を亡くし、夫の父母が抱え、つらい思いもしたのだらうし、不安だったに違いないの」。

征二郎さんは言います。「これが戦争ではないか。戦争は自然災害と違い、人間が仕掛けていく。戦争ではたくさんの方が犠牲になるし、後世へ禍根を残す。そして戦争で負った傷は100年たっても癒えるものではない。現在も戦争をしている国があるが、戦争が終わって何年たてば人も物も正常に戻るのか。絶対に戦争をしてはいけない」と。

終戦後70年以上経過した今、当時の様子を知らない人がだんだん少なくなってきた。実際に悔しい思いや悲しい思いをした人たちがいることを忘れてしまいがち、かつて犯した過ちを繰り返すことがあってはいけません。

そのためにも、当時を知る人から話を聞き、感じたり、考えたりしたことを後生へ伝えていくことも大切なことではないでしょうか。私たちが今「できること」「すべきこと」を考えてみましょう。



島の南西部にある摺鉢山から

平成29年度 庄原市戦没者追悼式並びに平和折念式典

本市の戦没者に哀悼の意を表すとともに、再び戦争の惨禍を繰り返すことのないよう、恒久平和を祈念するため、庄原市戦没者追悼式並びに平和折念式典を開催します。多くの皆さんの参加をお願いします。(申し込みは不要です。)

とき 8月23日(水) 10時

ところ 庄原市民会館

※当日は要約筆記による案内に加え、イントラネットでの中継も行いますので、各学校、各自自治振興センターなどでもご覧になれます。

※各支所から送迎バスを運行します。利用希望の方は8月15日(火)までに各支所に申し込んでください。(定員に限りがありますので、ご希望に添えない場合はご了承ください。)

問い合わせ

社会福祉課障害者福祉係

☎0824・73・12110

各支所地域振興室・市民生活室

※8月29日(火)～9月4日(月)に、庄原市役所市民ホールで、恒久平和を祈念して、折鶴や戦時中の資料などを展示します。市役所へお越しの際はぜひご覧ください。